

不登校問題についてお尋ねします。

先生方がボランティアで、学校に行けない子どもたちの学習支援をされている、熊本学習支援センターを何度か伺いました。2015 年からスタートした同センターは高校生に対する学習支援を当初想定していましたが、いまでは不登校の中学生や小学生を持つ保護者からも、そして熊本市以外からも多くの相談があるといえます。発達障害やうつ病の子どもさんも保護者と一緒に相談にこられることも少なくないそうで、学習支援にとどまらないサポートにも取り組んでおられます。先生方は子どもらの良き相談相手となり、昼夜逆転や引きこもりの傾向にあった子どもらも学習支援センターが貴重な居場所となっているようであります。

お話を伺って私が感じるのは、学校に行けずに苦しむ子どもや保護者らをサポートする体制を急いで拡充させる必要性であります。学習支援センターのように、自分の居場所を見つけ出すことが出来た子どもらは幸運であり、どうすればいいかわからない、相談できる人がいないといった、出口の見えない暗闇の仲で苦しんでおられる子ども、保護者が相当数おられます。不登校になる原因は貧困など家庭環境の問題、いじめや適応障害などの要因でクラス、学校になじめない、あるいは学習についていけないなど、個々それぞれの事情があります。不登校児及び家族に対する支援のあり方について学校や行政など関係機関、専門家が知恵を出し合って、様々な角度からの方策を検討していくことが必要ではないかと思えます。国会では不登校児童生徒に対する教育機会の確保や夜間中学設置などを定めた教育機会確保法が昨年成立しましたが、大事なことは、子どもの命や健やかな成長こそが最優先という立場に立ち、子どもが安心できる居場所を提供することではないかと思えます。また、先生方の不登校対応についての研修も進められておりますが、現場の先生方だけでなくスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも含めチームで個別の事例への対応を進めていくことが重要であろうと思えますし、また保護者が孤立せず、安心して相談できる相談窓口やサポート体制を充実させることも求められているのではないのでしょうか。不登校の問題に対するご見解と取り組みの現状、今後の方策について教育長にお尋ねします。

(不登校問題・切り返し)

国の教育機会確保法は、学校への復帰を前提とした内容でありまして、不登校児をいつまでにどれだけ減らすかということの数値目標に掲げる都道府県もあります。しかし関係者からは、子どもと親をさらに追い詰めると不安の声が上がっています。不登校の多くは、子どもが追い込まれ、やむにやまれず、自分の身を守るためにとる行動であります。子どもの命を守るためにあるいは傷ついた心をいやすために、場合によっては、学校に無理していなくてもいいんだよと安心を与えてあげることも大切だと考えます。一方、保護者が子どもの不登校を心配するのは当然のことです。さきほど教育長から、さまざまな視点から児童、保護者への支援が必要だとのこと答弁があったことを心強く思います。教育支援センターのお話もございました。私は先日ある町の支援センターを訪ね、お話を伺いましたが子どもたちをサポートする先生方の献身的取り組み、子どもらへの思いに大変感動しました。県内 18 市町村、29 か所と、まだまだ設置が十分とは言えません。ぜひすべての市町村が設置できるよう県の方からの支援も強めていただきたいと思います。教室に入れられないという子どものために、保健室、あるいは図書室、さらには空き教室に登校してもいいよという体制づくり、そのためにも教職員の増員が求められます。また、軽度の発達障害であるとか学習障害があってもそれに気づかず、必死に学校になじもうと

本人も家族も苦しんでいる場合もあるかと思ひます。また家庭の貧困、家族の事情などで学校にいけない場合もあるかと思ひます。不登校問題は、教育機関だけでなく医療や福祉との連携も重要であり、さらには民間の取り組みへのサポート、あるいは施設などの受け皿作りも切実に必要とされています。もちろん、子どもを追い込むことのない学校の在り方について深めていくことも大事であると思ひます。ぜひ関係部署が連携し子どもを第一に考えた不登校対策をさらに前進・充実させていただきたいと思ひます。また法に明記された夜間中学の設置もぜひ進めていただきたいと思ひます。